



ときめき
おおいた土木未来プラン 2024

生命を紡ぐ県土づくり

令和7年度 実施状況



大 分 県

第1章 計画の概要

1. 計画策定の趣旨

2024年（令和6年）9月に策定された大分県長期総合計画「安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいたの共創～」と、社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえて、これまでの成果の継承と新たなステージへ発展させていく、県土づくりの道標として策定しました。

社会情勢の変化や時代の潮流

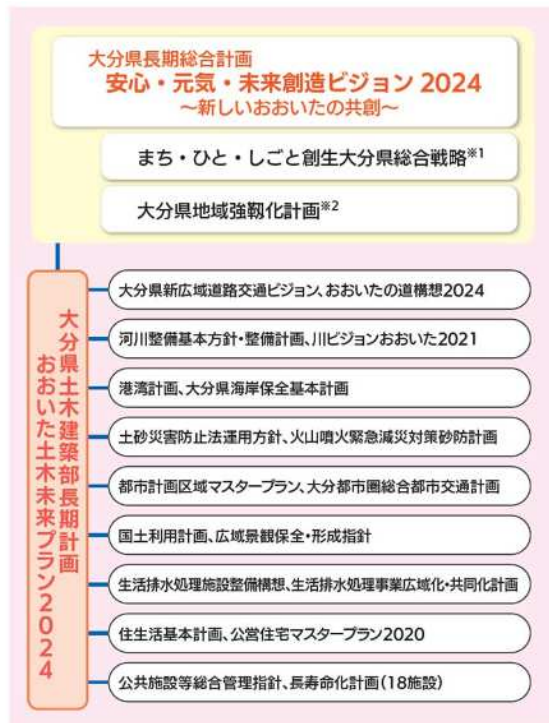
- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 水災害等の頻発・激甚化や切迫する巨大地震 | 5 ライフスタイルの多様化 |
| 2 急速に進む人口減少・少子高齢化 | 6 産業を取り巻く環境の変化 |
| 3 社会インフラの老朽化 | 7 デジタル化の進展と導入が進む新技術 |
| 4 地球環境問題の深刻化 | |

2. 計画の役割・性格

「安心・元気・未来創造ビジョン2024」を補完し、土木建築部所管の各種計画を推進するために基本的な考え方を示す計画です。

3. 計画の期間

2025年度（令和7年度）～2033年度（令和15年度）の9年間です。



4. 県土づくりの目指す方向

（1）基本目標

誰もが**安心・元気**に暮らし、
希望あふれる**未来**を**創造**するときめく県土

（2）県土づくりの3つの分野

これまでの取組に加え、社会情勢の変化や時代の潮流を踏まえた新たな課題への対応を具体的な施策として3つの分野に織り込み、県土づくりを進めます。

- I **安心**な暮らしを守る強靱な県土づくり
- II **元気**で快適に暮らせる地域づくり
- III おおいたの**未来**を**創造**するネットワークづくり

5. 取組にあたっての視点

共通の基本的な考え方や分野横断的な取組として掲げた4つの視点に立って各施策を進めます。

（1）県民や多様な主体との協働

- ・県民意見の反映、県民要請に対する迅速な対応
- ・ボランティア団体との協働や民間ノウハウの活用 等

（2）効率的・効果的なインフラ整備

- ・事業評価や品質確保、生産性向上や事業執行マネジメント
- ・インフラ管理の最適化や更なる利活用 等

（3）変化する社会課題への対応

- ・自然環境や周辺景観への配慮
- ・循環型社会や脱炭素社会に対応する取組 等

（4）人づくり・組織づくり

- ・建設産業の担い手確保、育成
- ・市町村への支援や土木建築部職員の育成、組織づくり 等

第2章 県土づくりの3つの分野

(1) 流域治水の推進

■過去に被災した小野川や山国川などで河川改修工事を実施し、令和7年度に9地区の対策工事が完了しました。

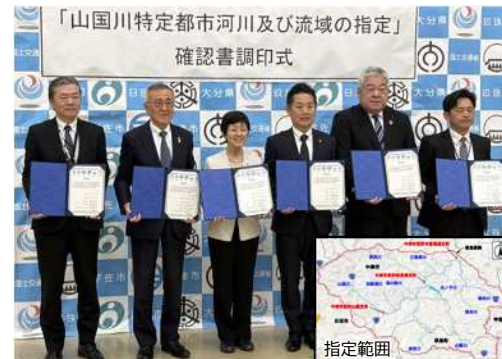
■令和8年3月24日、山国川水系山国川等の計10河川（大分県）が県内で初めて特定都市河川に指定されました。今後、河川整備等のハード対策に加え、流域全体で浸水被害対策を計画的に進めるための流域水害対策計画の策定を進めていきます。



小野川：河川拡幅工事（日田市）



山国川：諏訪橋の架替工事（中津市）



山国川特定都市河川の指定

(2) 土砂災害対策の推進

■県内229箇所で砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業を実施し、日田市大字大肥の吉竹川①や佐伯市直川大字上直見の宮ノ下地区など8か所で対策が完了し、令和7年度までに累計で701戸の家屋の土砂災害のリスクを軽減しました。

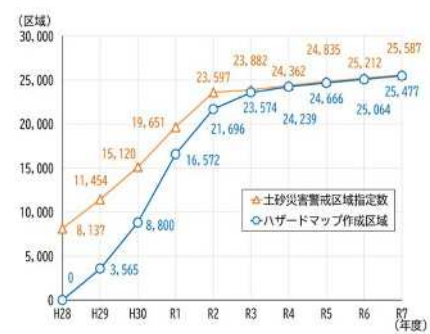
■高精度な地形データに基づく基礎調査により新たに375区域を土砂災害警戒区域に指定するとともに、市町村が行う土砂災害ハザードマップの作成支援を実施しました。



吉竹川①（日田市）



宮ノ下地区（佐伯市直川）



土砂災害警戒区域指定数とハザードマップ作成区域数

(3) 地震・津波・高潮対策の推進

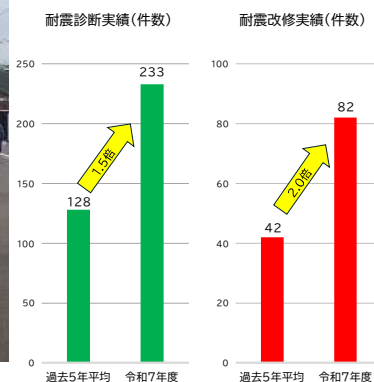
■大野川にかかる国道326号の犬飼大橋など優先啓開ルート上の耐震補強が必要な橋梁3橋で耐震化が完了しました。

■緊急輸送道路における無電柱化を推進し、国道442号（宗方工区）のうち0.39kmの整備が完了しました。

■県内15箇所での耐震キャラバンなど普及啓発活動の強化を行うとともに、耐震改修工事の補助額の拡充などを行った結果、木造住宅の耐震診断実施件数は過去5年平均の1.5倍、耐震改修工事实施件数は2.0倍に増加しました。



国道326号：犬飼大橋（豊後大野市）

無電柱化の整備状況
国道442号（大分市上宗方）

耐震診断・耐震改修の実績

(4) 交通安全対策の推進

■朝田日田線や中津吉富線など計10路線で6.4kmの歩道整備及びカラー舗装による歩行者分離対策を実施し、歩行者の安全を確保しました。

■県が管理する既存の公共施設のバリアフリー化を推進するため、県内10路線の歩道面の段差解消、視覚障がい者誘導用標示（点字ブロック）の補修を実施しました。



歩道整備状況
朝田日田線（日田市）



歩道面段差解消、視覚障がい者誘導用標示（点字ブロック）更新
鉄輪亀川線（別府市）

(5) 社会インフラの老朽化対策と適切な維持管理

■令和5年度までの点検で確認された、早期措置の必要な橋梁・トンネルについて、令和7年度までに橋梁118橋、トンネル46基の対策が完了しました。

■令和7年度実施の橋梁点検において、11橋でドローンやAIを活用した点検を実施しました。また、トンネル点検では、現地での作業期間を短縮するため、3箇所のトンネルで点検支援技術能力カタログ等の新技术を活用した点検を試行的に実施しました。

■河川堤防の維持管理の省力化のため、県内6台目となるラジコン草刈機を導入し、延べ109団体のリバーフレンド事業参加団体に活用いただきました。

■県管理道路の維持管理の省力化のため、国道502号などで張コンクリートなどによる防草対策を行いました。



湯田橋
（玖珠町）



権現トンネル
（国東市）



ラジコン草刈機
田深川（国東市）



道路のり面の防草対策
国道502号（豊後大野市）

(6) 危機管理体制の充実

■大規模災害発生時の迅速な受援体制構築と被災状況調査を行うため、平成29年と令和5年に（一社）大分県測量設計コンサルタント協会と締結していた協定を統合し、「緊急被災状況調査に関する協定」を新たに締結しました。また、令和7年7月には（一社）日本ムービングハウス協会及び（一社）日本オフサイト建築協会と「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」を締結しました。

■河川水位上昇時の早期避難を促すため、県内30箇所（全79箇所）に水位表示マークを設置し、水位の危険度を可視化しました。



緊急被災状況調査に
関する協定の締結



床木川：水位表示マーク
（佐伯市）

(1) 快適な都市空間の形成

- 大分市の東西骨格軸を形成する
(都)庄の原佐野線(下郡工区)では、全15の橋脚が完成するとともに、JR豊肥本線を跨ぐ橋を架設するなど、着実に事業を推進しました。現在は橋梁上部工工事を行っており、令和9年中の供用を目指しています。
- 都市部や主要観光地における交通の円滑化を図るため、国道217号土橋交差点など主要渋滞箇所2箇所を解消するとともに、国道197号鶴崎拡幅などの事業を推進しました。



(都)庄の原佐野線(大分市)



国道217号：土橋交差点(臼杵市)

(2) こどもまんなかまちづくりの推進

- 子どもの見守りがしやすい対面キッチンの整備や畳からフローリングへの変更など、大分市、佐伯市等7市1町で子育て世帯向け住戸への改修を計54戸実施しました。
- 通学路合同点検による要対策箇所において、歩道整備や防護柵の設置等を実施し、別府湯布院線(川上工区)など新たに20箇所の危険箇所を解消しました。



県営岩田住宅(大分市)



別府湯布院線(由布市)



大在大分港線(大分市)

(3) 快適な住まいづくりと地域共生社会の実現

- 県営明野住宅の建替事業を計画的に進め、令和7年度までに全5棟のうち2棟の計89戸が完成しました。また、地域住民との交流を促進する集会場が1棟完成しました。
- 高齢者や障がい者、低額所得者等の住宅確保要配慮者の住まいの確保や暮らしを支援する居住支援協議会が、新たに由布市と姫島村に設立されました。

完成した県営明野住宅
HRR-5棟(大分市)完成した県営明野住宅
MRR-4棟(大分市)完成した県営明野住宅
集会所(大分市)

姫島村居住支援協議会設立

■別府港・津久見港・佐伯港・中津港において、港湾利用者や立地企業などから構成される港湾脱炭素化推進協議会を開催しました。港湾地域から排出される温室効果ガスの削減目標等を定める港湾脱炭素化推進計画の素案を作成するなど、カーボンニュートラルレポートの形成を推進しました。

■竹田総合庁舎大規模改修工事、別府総合庁舎新築工事において、ZEB Ready※認証を取得し、ZEB化を実現しました。



港湾脱炭素化推進協議会の状況
(佐伯市)



カーボンニュートラルレポート
(CNP)のイメージ



別府総合庁舎新築工事（別府市）



高効率空調

LED照明

内観

※ZEB Ready：再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物

(5) 「おんせん県おおいた」のツーリズム支援

■両子寺から富貴寺までのアクセス道路である新城山香線（梅木南工区）を部分供用するなど、観光地へのアクセス道路や周遊ルートの整備を10路線14工区で推進しました。

■景観まちづくりについて県民意識を醸成し、市町村職員の知見を広げるため、景観・まちづくりセミナー等の開催や小学生向けの景観教室の実施などの取組を計7回実施しました。

■クルーズ船誘致に向けた船社へのポートセールスを実施し、令和7年度は過去最高の53隻が県内に寄港しました。（令和6年度 31隻）7月には、姫島村初となるクルーズ船の寄港が実現しました。



新城山香線 梅木南工区
(豊後高田市)



景観教室（国東市）



飛鳥Ⅱ 寄港時の賑わい
佐伯港（女島地区）

(1) 広域道路ネットワークの充実

■東九州自動車道

- ・4車線化事業について、令和7年12月に宇佐IC～院内IC間の4.6kmが完成し、残る3区間約16kmにおいても着実に整備が進められています。

■中九州横断道路

- ・令和7年12月に大分県・熊本県の共催で「中九州横断道路広域シンポジウム」を開催し、早期全線開通に向けた機運醸成を図りました。
- ・県内の残る未事業化区間である「大分～犬飼」について、環境影響評価手続きなどが進み、令和8年1月には都市計画決定に関する素案の手続きを行いました。

■中津日田道路

- ・「三光本耶馬溪道路」（直轄権限代行）では橋梁などの工事が進められ、「耶馬溪山国道路」では調査・設計、「日田山国道路」では1号トンネル本坑などの工事を着実に進めました。

■大分空港道路

- ・暫定2車線区間の4車線化について、交通実態を踏まえた必要性などの検討を進めています。

■将来を見据えた広域道路ネットワークの検討

- ・豊後伊予連絡道路の早期実現に向け、令和8年1月に「九州・四国広域交通ネットワークシンポジウム」を開催し、関係県等の連携と機運醸成を図りました。



広域道路ネットワーク図（令和8年4月）

東九州自動車道 開通状況
(宇佐IC～院内IC 本線部)中九州横断道路広域シンポジウム
(竹田市)

1号トンネル掘削状況



三光本耶馬溪道路整備状況

九州・四国広域交通ネットワーク
シンポジウム（大分市）

(2) 地域を支える道路ネットワークの充実

- 旧市町村間や主要な地域間を結ぶ幹線道路について、渋滞の解消や歩行者の安全確保などを目的として、課題箇所の優先的な整備を進めています。令和7年度は、国道387号（下余工区）での歩道などの整備を推進しました。

- 地域の拠点と集落を結ぶなど、生活に欠かせない道路において、地域のニーズ等に応じた様々な手法による整備を進めています。令和7年度は、安心院湯布院線などで事業を実施し、既設の道路敷を利用した路肩拡幅や側溝整備等の局所改良を行いました。



改良前

歩行者が路肩を通行



改良後

歩行者の通行空間を確保



改良前

狭隘な道路



改良後

道路敷を利用した路肩の拡幅

国道387号 下余工区（宇佐市）

安心院湯布院線（宇佐市）

(3) 選ばれる港に向けた機能強化

- 別府港石垣地区において、大型化した大阪航路フェリーへの対応、利便性が悪い上屋の統合、耐震性のある岸壁の整備等を図るため、別府港再編事業を実施しています。令和7年度から、大阪航路の岸壁整備に着手しました。
- 大分港大在地区では、コンテナクレーンの老朽化対策および荷役作業の安全性・効率性の向上を図るため、令和7年度までに全2基のクレーンの更新が完了しました。
- 中津港田尻地区では、港内の交通混雑を解消するため、バイパス道路の整備を推進しました。



別府港石垣地区（別府市）



大分港大在地区（大分市）



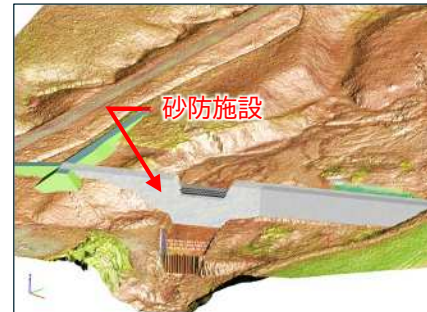
中津港（中津市）

(4) インフラ分野のDXの推進

- ICT活用工事の対象工種について、これまでの16工種から地盤改良工（サンドコンパクションパイル工）など新たに4工種を追加し、ICT活用工事を62件実施しました。
- 新規事業を対象に、3次元データを扱う測量・設計業務を試行しました。
- 港湾の外郭施設（防波堤等）12箇所において、AI解析を用いたドローン点検を実施し、維持管理の効率化を図りました。



ICT活用工事実施状況（国東市）



3次元データを扱う測量・設計



港湾外郭施設点検実施状況（大分市）



(5) 建設産業を支える人づくりの推進

- 建設産業への入職を促進するため、育児休業等の規程整備や若年技術者の資格取得に係る経費補助を26社に行いました。
- 建設産業女性活躍事業について、さらなる女性活躍の場を築くため、「BLOCKS」から「Buildy（ビルディ）」へ名称変更し、各種セミナーや成果報告会等を計13回開催するとともに、県内20の高校・大学等で建設産業で働く女性達による出前講座を行いました。さらに、建設産業で働く女性のやりがいや想い、本音などを紹介する「Buildy Book」を発刊しました。
- 県内の小中学生を対象に、BUILD OITA主催の親子体験型イベント「バスツアー」や「お仕事教室」を開催するなど、次世代を担う子供たちが建設産業への興味・関心を高めるための活動を行いました。



成果報告会



Buildy Book



バスツアー



お仕事教室